

みんなで、
平和への約束を…。



広島平和記念式典派遣事業
実施結果報告書
2009年8月5日(水)～7日(金)



目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって	3
II	研修レポート	4
①	三日間の日程	
②	学びの記録	
③	学びの発信	
III	広島平和記念式典派遣事業行程表	12
IV	派遣事業の概要など	14
①	派遣事業の概要	
②	派遣事業参加中の役割分担	
③	話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開	
V	資料	17
○	非核平和都市宣言	

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 小林 清

燕市は、平成18年12月25日「非核平和都市宣言」を行いました。非核平和は私たち人類の普遍的願いです。平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、非核平和都市として宣言したものです。

日本は、世界で唯一の被爆国として、二度とあってはならない原子爆弾の恐ろしさを体験しています。平和の尊さと戦争の悲惨さを体験した私たちは、二度と戦争を繰り返してはなりません。人類が生きるために最も大切な「平和」に対する思いを真剣に世界に向けて訴えていく必要があります。

そこで、昨年度に引き続き、燕市では非核平和の推進及び平和学習活動の一環として広島平和記念式典派遣事業を実施いたしました。

この事業は、広島市原爆死没者慰靈式並びに平和祈念式をはじめとする様々な催しへの参加、施設見学や原爆体験者の話を聞くことにより、次代を担う中学生から国際的視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解を深めていただき、「命の尊さ」や「平和を愛する心」を学んでいただくために実施するものです。

燕市立の5つの中学校より代表各1名の生徒を広島へ派遣するとともに、全校の生徒からは、平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして千羽鶴を折り、これを「原爆の子の像」に捧げました。

生徒たちは、平和記念式典への出席、広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰靈碑等の見学、被爆体験講話の受講、灯篭流しへの参加などにより、「命の尊さ」や「平和を愛する心」について学んだことだと思います。

今後は、各学校で、全生徒への報告会その他の事後研修を実施していただき、各学校の代表者が学んだことを、各学校の生徒さんたちみんなで共有していただけるものと思います。

今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただきましたことについてまして心より感謝申し上げます。

三日間の日程

1日目 8月5日(水)

- ◇ 出発式(吉田庁舎) 7:00~7:30
- ◇ 移動(燕三条から広島) 8:10~14:05
- ◇ 木松旅館 14:30~15:00
- ◇ 平和記念公園 15:40~16:50
千羽鶴奉納
公園内見学
- ◇ 木松旅館 17:30~
夕食 ミーティング

2日目 8月6日(木)

- ◇ 木松旅館 ~6:40
- ◇ 広島平和記念式典参加 7:20~8:45
原爆死没者名簿奉納
広島市長あいさつ 遺族代表あいさつ 広島市議会議長あいさつ
献花 黙とう(平和の鐘) 平和の誓い(子ども代表)
- ◇ 木松旅館 9:30~10:00
- ◇ 平和記念資料館 10:40~11:50
- ◇ 朝食
- ◇ 広島市内視察 13:20~16:00
袋町小学校平和資料館 爆心地(島外科病院) 旧日本銀行広島支店
旧帝国銀行広島支店 福屋百貨店 旧大林組広島支店
本川小学校平和資料館 中央公園中国軍管区司令部跡(旧防空作戦室)
広島城 江波山気象館
- ◇ 灯籠流し(平和記念公園) 19:00~19:50
- ◇ 木松旅館20:15~
夕食 ミーティング

3日目 8月7日(金)

- ◇ 被爆証言講和受講(木松旅館) 9:30~10:20
- ◇ 広島駅自由行動 10:30~11:30
- ◇ 移動(広島~燕三条) 11:44~18:03
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:03

学びの記録（8月5日）

平和記念公園 小池中学校 渡辺純大

1日目、僕たちは平和記念公園内を見学しました。初めに「原爆の子」の像に千羽鶴を奉納しました。そこには、全国から集まつたたくさんの鶴がありました。これを折った全ての人が世界平和を願っていると僕は感じ、この思いは世界中の全ての人が知るべきだと思いました。



その後、僕は広島二中原爆慰靈碑を見に行きました。慰靈碑の裏には原爆によって亡くなった広島二中の生徒や先生の名前が彫られていました。僕はこれだけの人が本当に一瞬で死んでしまったのかと思うと胸が痛くなりました。その後、義勇隊の碑を見にいきました。そこでは、地元の人に義勇隊について詳しく教えてもらいました。この時、僕は自分たちにも原爆の悲惨さを伝えていく義務がある事を感じました。



1日の活動を通して、平和について、また、これから自分の自分について深く考えることができました。

学びの記録（8月6日）

平和記念式典 燕北中学校 関根圭祐

2日目、私たちは、平和記念式典に参列して、平和を願う人たちの思いが込められた千羽鶴や原爆ドームを見たり、麻生首相の国際平和実現へ向けた内容の話を聞いたりしました。また、秋葉広島市長さんのオバマ大統領を支持し、核の廃絶を2020年までに達成する運動の話な



ど世界平和・国際平和へ向けた決意ある話や、国連事務総長の潘基文さんの人権・正義の追求などの、法律に関するメッセージも聞いてきました。

最後に私たちは、平和実現に向けて私たちは折り紙で鶴を折ったり、灯籠を流したりして世界平和を祈りました。

平和記念資料館 分水中学校 前野 育

平和記念式典を終え、広島平和記念資料館へと向かいました。涼やかに残酷な真実を語る空間が私たちを待っていたのです。

この日は、平和式典もあったということで館内は混み合っていました。どの人も真剣に、また食い入るように原爆が残した傷跡を見つめています。

熱線による、爆風による、放射線による被害の数々。被爆した方々の痛々しく生々しい遺物。全てを葬り去った「小さな少年」と彼の残したきのこ雲。それらの全てが真実であり、ありのままの戦争でした。

特に印象が残ったのは、切り取られた指と手の皮です。その人は、あまりの喉の渇きに、爪の剥がれた指先から滴る膿を飲んだといいます。平成という時代に生まれた私には、想像すらできません。目をそらしたくてもそらせない現実を前に、ただただ立ち尽くすしかありませんでした。

全てを見終わり私の中に残った感情は、同情というよりは驚愕でした。今まで資料でしか見たことのない原爆の世界が、手の触れる距離にあり、全力で訴えかけてきます。原爆のもたらした悲劇と、それから学ぶこと、語り継ぐことの必要性を強く感じました。

市内観察 燕中学校 五十嵐 梓

市内観察では、爆心地や旧日本銀行広島支店などを見ました。爆心地では、被爆した当時の姿はなく、跡地として書かれているだけで、あとはきれいな街並みでした。

事前研修では、広島に原爆が落ちる前と落ちた後を見ていたので、凄く変わったのだなと思いました。旧日本銀行もきれいになっていてびっくりしました。

しかし、原爆ドーム前を通るとやはり原爆の痛々しさが残っており、昔と変わった場所もあるけれど変わらずに残っているところもあるのだなと思いました。



本川小学校平和資料館も見ましたが、現在の建物は建て直しをしたそうなので、建て直しをしなければいけないほど倒壊してしまったのかと思うととても悲しかったです。

広島は64年前と比べて凄くきれいになっていました。けれども、原爆ドームのように変わらないものもあります。それは戦争の悲惨さを教えるためだと思います。



学びの記録（8月7日）

被爆証言講和の受講 吉田中学校 山口拓哉

研修3日目には、被爆者渡辺さんという80歳を過ぎたの方から、私たちの宿舎においていただき、お話を聞いていただきました。当時、渡辺さんは、軍需工場で、弾丸をつくる仕事をしていたそうです。その工場は、爆心地に近いところにあり、原爆の光や爆風が強く当たる場所だったそうです。それにもかかわらず、渡辺さんが助かった理由は、8月6日が、ちょうど第1月曜日で、工場が休みだったためです。日が照っていて、日傘をさした瞬間、原爆が落ちてきたそうです。それで、直接光を浴びなかつたことが、幸いだったそうです。しかし、反射した光が当たった唇の上の皮膚は、だらりと垂れて出血してしまってそうです。



渡辺さんの家族も、被爆しました。お母さんは、髪がぼさぼさになり、静脈が切れて出血しましたが、なんとか一命はとりとめたそうです。しかし、お父さんは、まともに光を浴び、大やけどをして、10日後、誰も気づかないうちに亡くなったそうです。お兄さんは、原爆が落ちた瞬間は、それほど重いケガではなかったけれど、しばらく経ってから、骨に穴があいて、骨が崩れ始め、亡くなっていたそうです。

また、町の様子は、瓦が辺り中に落ちていて、道路は歩ける状態ではなかったそうです。そして、被爆した大勢の人々が、幽霊のように手を胸の前に出して小またで歩いていたそうです。髪はなく、体は震え、体からは体液のような

ものが流れ出ていたそうです。人々の皮膚はだらりと垂れていて変わり果てた姿で、「水をください。」と言っていたそうです。

また、被爆してやけどをした人々は、被爆後も周りの人や家族からも差別を受けていたそうです。渡辺さんは、そういった人々が、かわいそうでかわいそうでたまらなかったと訴えていました。

今回、渡辺さんのお話を聞きし、私は当時の広島の悲惨な様子が心に焼きつき、原爆が多くの命を奪っていったことを改めて知ることができました。



学びの発信

～広島で感じたこと～ 燕中学校 五十嵐 梓

私は戦争について、あまり考えたことはありませんでした。遠い昔のことのような気がして他人事のように思っていました。しかし、広島でたくさんの体験をしてもっと戦争について考えようと思いました。

学徒動員で私と同じくらいの年の人人がたくさん亡くなったと聞いて、凄く悲しかったです。



私と同じくらいというと夢や未来があったはずなのに、それが一瞬にしてなくなってしまったかと思うと今までそんなことを知らなかったので、とてもショックでした。

現在、世界では広島へ落した原爆の何千倍の力もある原爆があると聞きます。そんなものをまた日本に落としたら、きっと日本自体が無くなってしまうと思います。そんなことを再び繰り返さないために、平和記念式典があるのだと思います。

私は、広島で学んだ「命を大切にすること、平和への願い」を学校の生徒皆さんに伝え、「命の尊さ」を考えてほしいです。それが私にとっての、平和への願いを込めた思いです。

～広島で感じたこと～ 小池中学校 渡辺純大

僕はこの3日間の活動を通して、改めて「平和の尊さ」を感じました。

平和記念公園内には、たくさんの慰靈碑がありました。これら一つ一つが原爆によって亡くなった人のものだと考えたとき、自分の考えていた規模を超えていて驚き、そして、とても悲しい気持ちになりました。



また、平和記念資料館では、原爆によって止まった腕時計、被爆者が着ていた衣服など、生々しい原爆の爪痕が残していました。それらのものからは、被爆者の方たちの恐怖を感じることができました。

3日間の経験は、僕の平和についての考え方を改めさせるものでした。たくさんの経験が、「世界平和」「核廃絶」への思いを以前より強いものへと変えました。これからはただ平和を祈るのではなく、被爆者の方、また、その子孫や遺族、そして世界中の人のために世界平和を祈りたいと思います。

～広島平和記念式典に出席して～ 燕北中学校 関根圭祐

僕は、8月6日の平和記念式典に出席したり、原爆ドームなど被爆した地域や平和記念資料館を見学して、原子爆弾の威力を改めて知りました。64年前のあの日、原爆が落とされて、多くの命を奪い、今までも後遺症でたくさん的人が苦しんでいて、僕はこの世界から核という兵器が消え、平和が来ることを心の中で願っています。そして、記念式典で心に残った言葉があります。それは、広島市長さんの平和宣言の最後の英語での呼びかけです。それは次のようなものです。「We have the power. We have the responsibility. And we are the obamajority. Together, we can abolish nuclear weapons. Yes, we can.」意味は、「私たちは力があり、私たちは責任があります。そして、私たちはオバマジョリティです。力を合わせれば、核兵器を廃絶できます。絶対にできます。」という意味です。いつ核が廃絶されるか分かりませんが、麻生総理かオバマ大統領がきっと政治の力で核をなくしてくれる事を祈っています。そして本当に、この世界に平和がくることを願っています。



最後に、被爆を体験した人の話を聞いて、今でも多くの人が原爆の後遺症で、苦しんでいる人がいます。その人たちのためにも、平和実現か核廃絶のためにも、みんなが力を合わせて一歩ずつ平和へ歩んでいくことが、とても大切なことではないかと思います。

～広島での体験を通して～ 吉田中学校 山口拓哉

私はこの派遣事業で今までと考えが変わりました。今までの私は、ただ何となく、平和な社会であればいいという考えでした。しかし、広島での体験は、そんな私に、強烈に訴えかけるものがありました。



最初に、私は吉中のみんなが心を込めて祈ってくれた千羽鶴を奉納するために、平和記念公園を訪れました。そこでは、生徒たちが、署名活動をしたり、被爆者の方々が、戦争の悲しいお話を街頭で朗読したり、外国人と日本人が握手などをしたりしている様子を見ました。私は、二度と戦争を起こさず、平和を守っていくために、たくさんの人々がいろいろな活動をしていることが分かりました。次に平和記念式典に参列しました。多くの人々が、平和への祈りを捧げ、亡くなった人々を追悼していました。私は何も罪もない多くの人々の命が今自分が立っているこの場で奪われたことを思うと、悲しい気持ちでいっぱいになりました。

これらの体験を通して、私は、ただ戦争がなければいいという考えではなく、戦争を二度とおこさないようにするため、広島の当時の惨状と、平和への思いをしっかりと伝えていかなければならないという考えに変わりました。

一人でも間違った考え方をもてば、また戦争が起こるかもしれません。そうならないために、私は周りの友達や次の世代の人たちに平和への思いを伝えています。そして、先の未来でも、明るい平和な世界が広がっていくようにしたいです。

～広島で感じたことから～ 分水中学校 前野 育

広島駅に着き新幹線から降りた瞬間、ものすごい熱風が私を襲う。人工的に管理された空調に慣れた体には、きつすぎる広島の夏だった。64年前の今ごろも、同じような真夏日であっただろうと考えると、何とも言えない気持ちになった。

派遣事業の核ともいべき平和記念式典に参列し、午前8時15分。平和の鐘が辺りに鳴り響き1分間の黙とうを捧げる。会場全体が静寂に包まれ、平和を祈る人々。ちらりと見えた横顔の凛とした表情が心に残っている。

特に心に残ったのは平和への誓いだ。幼いながらもハキハキとした声色で弁じられたこの誓いは、参列者に平和の大切さを強く感じさせたと思う。「人間が人間らしい最期を迎えられなかった残酷な光景」～戦争という出来事がもたらした最悪の結果だ。誰からも看取られず、遺骨も残されずに死んでいく人間が、これ以上増える意味が一体どこにあるというのだろうか。

「死」というものは誰にでも平等に訪れる結末であり、それから逃れることは人間である限り決してできない。しかし、だからといって、その結末を他人の手で与えてしまってもよいのだろうか。否、よいわけがない。自分以外の者に強引にもたらされた「死」はこの世に存在してはならないものなのだ。命の尊さ、平和の大切さ。広島で学んだ全てを皆さんに伝えたい。



広島平和記念式典派遣事業行程表
8月5日（水）

吉田庁舎	マイクロバス	Maxとき310号	のぞみ19号	山陽本線							
7:00	7:30	燕三条	東京	広島	西広島	木松旅館				
出発式		7:50	8:10	9:55	10:10	14:05	14:13	14:20	14:25	14:30	15:00
西広島	広島電鉄	原爆ドーム前	平和記念公園	原爆ドーム前	原爆ドーム前	西広島	木松旅館			
15:10	15:15	15:30	15:35	15:40	16:50	17:00	17:05	17:20	17:25	17:30	(夕食後ミティング)
				○原爆の子の像（千羽鶴）	○祈りの泉						
				○平和の泉	○嵐の中の母子像						
				○平和の鐘	○平和の塔						
				○平和の石塚	○アセル・デュノー博士記念碑						
				○平和の時計塔	○被爆アオギリ						
				○原爆供養塔	○佐三吉詩碑						
				○韓国人原爆犠牲者慰靈碑	○平和祈念館						
				○被爆した墓石	○リストハウス						
				○平和乃観音像	○動員学徒慰靈塔						
				○平和の灯	○原爆ドーム						
				○原爆死没者慰靈碑							
				○平和祈念像							
				○祈りの像							

8月7日（金）

木松旅館	西広島	広島	東京	木松旅館				
9:00	10:20	10:25	10:38	10:46	11:44	15:53	16:12	18:03			
○講話受講1時間											
8月7日（金）											
木松旅館	西広島	広島	東京	木松旅館				
9:00	10:20	10:25	10:38	10:46	11:44	15:53	16:12	18:03			
○講話受講1時間											
8月7日（金）											
木松旅館	西広島	広島	東京	木松旅館				
9:00	10:20	10:25	10:38	10:46	11:44	15:53	16:12	18:03			
○講話受講1時間											

広島平和記念式典派遣事業行程表
8月6日(木)

		広島電鉄						
		平和記念公園					西広島	
木松旅館	西広島	原爆ドーム前	平和記念公園	原爆ドーム前	- - -
6:40	6:45	6:50	7:05	7:10	7:20	8:45	9:00	9:05
					○広島平和記念式典 (広島市原爆死没者慰 靈式並びに平和祈念 式)			
		広島電鉄					タクシー	
木松旅館	西広島	原爆ドーム前	平和記念資料館	市内で昼食	- - -
9:30	10:00	10:05	10:10	10:25	10:30	10:40	11:50	12:00
					●袋町小学校平和資料館 ●旧日本銀行広島支店 ●福屋百貨店 ●本川小学校平和資料館			
		広島電鉄					タクシー	
広島城	—	江波山気象館	木松旅館	西広島	—	原爆ドーム前
14:00	15:00	15:20	16:00	16:20	16:20	18:25	18:30	18:45
					○中央公園中國軍監区 司令部跡(旧防空作戦 室)→14:00~14:30 ○天守閣			
		木松旅館					タクシー	
20:15		(夕食後ミーティング)					19:00	19:50
							平和記念公園	

1 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおりです。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意してください。

① 目的

非核平和宣言推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

② 日程

平成21年8月5日(水)から 平成21年8月7日(金)まで

③ 主な活動内容

- (1) 広島市原爆死没者慰靈式並びに平和祈念式への参列
- (2) 広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰靈碑等の見学
- (3) 原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴を納める
- (4) 被爆証言講話の受講
- (5) 灯籠流しへの参加
- (6) 事後研修（8月下旬から9月にかけて事後研修として報告会を実施など）

④ 行程

（広島平和記念式典派遣事業行程表のとおり）

集合：吉田庁舎第1会議室 午前7時

⑤ 参加者名簿

氏名	性別	学校名	学年	備考
五十嵐 梓	女	燕中学校	3	
渡邊 純大	男	小池中学校	3	
関根 圭祐	男	燕北中学校	3	
山口 拓哉	男	吉田中学校	3	
前野 育	女	分水中学校	3	

⑥ 引率者

高宮 潤	男	総務課
松島 悅子	女	生涯学習課

2 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動の一環として、参加者の皆さんから、次の通り役割分担をしていただきます。

役割分担の内容		人数	氏名
(1)	出発式代表あいさつ(参加に当たっての心構え)	1名	
(2)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	1名	
(3)	ミーティング司会	1名	
(4)	2日目昼食場所の選定（意見とりまとめ）	1名	
(5)	報告書とりまとめ（執筆分担したもののとりまとめ）	1名	

3 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

「国際的な視点・命の尊厳・平和の尊さ」を学び、さらに、他の生徒たちへ伝えるため、「研修の記録」、「学びの記録」、「学びの発信」という3ステップで学習活動を進めます。

① 参加前学習（研修の記録）

- (1) 行程及び資料の確認
- (2) 広島原爆投下の歴史的背景
- (3) 第二次世界大戦の戦時下の生活
- (4) 原子爆弾の被害・惨状
- (5) 今、世界のどこかでおきている戦争
- (6) 被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

② 参加中学習（学びの記録）

- (1) 平和記念公園
- (2) 平和記念資料館
- (3) 市内視察（被爆建物その他施設などの見学）
- (4) 被爆証言講話
- (5) 広島平和記念式典（広島市原爆死没者慰靈式並びに平和祈念式）

③ 参加後報告（学びの発信）

参加後に報告として、次の通りとりまとめ、提出してください。

項目	説明	担当者	備考
(1) 研修の記録	期間中の主な行程についてまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真2枚)
(2) 学びの記録	見聞きして学んだことをまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真数枚)
(3) 学びの発信	参加して得たものをまとめ、発信する	各参加者全員	400字程度 (写真一枚)

④ 参考

(1) ホームページアドレス

広島平和記念資料館

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

広島市

<http://www.city.hiroshima.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>

(2) その他資料

別冊参照

資料 「非核平和都市宣言」（平成18年12月25日）

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から搖るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市



広島平和記念式典派遣事業
実施結果報告書 2009/8/5(水)～7(金)



燕市●総務部総務課●教育委員会学校教育課